

ソルフェージュスクール演奏会開かれる

生徒全員が参加する年に1度のソルフェージュスクール演奏会が、7月2日(日)に日本橋公会堂で開かれました。6月11日、18日そして25日のたった3回でしたが、レッスン日の異なる生徒が一同に顔を合わせて、連弾、室内楽、リトミックとうた、器楽合奏、弦楽合奏そして合唱を練習しました。生徒はみな、練習から本番まで、気持ちをひとつにして演奏する難しさ、緊張、喜び、感動を体験したことで大きな進歩と糧を得たことと思います。また、この素晴らしい演奏会を開くために惜しみないサポートをしてくださった後援会のみなさま、ステージマネージャー・加藤光俊氏、スクールOB・大矢真義氏、そして中学生以上の有志生徒のみなさんに深く感謝いたします。 理事長 吉村隆子

ソルフェージュスクール新聞

春夏号

2017年10月15日発行

編集人 吉村隆子
豊島区目白 4-23-10
(Tel) 03-3953-8517

公益財団法人
ソルフェージュスクール

♩ # ♭ ♪ 演奏会プログラム ♪ # ♭ ♪

第一部

1. ピアノ連弾
A 5月の朝/ドゥリング、ほか
B ポーランドの連弾曲集より
指人形/プルシンスキ、ほか
2. 室内楽
A 二重奏 Op.23-1 / ダンクラ
B ソナタ/ヴェラチーニ
C 三重奏 Op.3 / ベートーヴェン
3. リトミックとうた
世界中のこどもたちが/詞・新沢としひこ
曲・中川ひろたか
4. うた
七つの子/詞・野口雨情 曲・本居長世

第二部

5. 器楽合奏
キッチンシンフォニー/クリング
6. 弦楽合奏
アポロとミューズより/ストラヴィンスキー
1 アポロの誕生 2 アポロと妖精の踊り
3 カリオペの踊り 4 ポリムニアの踊り
5 コーダ
7. 合唱 聖歌集より/ラター
There is a flower A Clare Benediction
I will sing with the spirit
The peace of Got Look at the world



ピアノ連弾 B リズムに乗って二人で楽しく



室内楽 A 小学生から高校生まで気持ちを一つに



子どものコーラス:レ・テタール 歌うことがもっと楽しく、もっと好きになる

レ・テタールは初めての合唱、7月の演奏会に、一年生の娘はレ・テタールの団員として、うた「七つの子」に出演させていただきました。私自身も幼少期からソルフェージュスクールへ通っていたので、3階ホールでお友達と走り回り、音に合わせて思いっきり身体を動かしたり歌ったりした楽しい記憶は今でも鮮明です。娘たちにもその楽しさや喜びを経験させてあげたいという思いから、4月より姉妹でレ・テタールとウフに通っています。

「指人形」のリズムが楽しかった! 最初は、たくさんの方の前で、舞台上でピアノを弾くのがいやで、あまり練習をする気になれませんでした。でも、ゆうりちゃんと一緒に練習しているうちに、楽しくなってきました。とくに、二曲めの「指人形」のリズムが楽しくて、ゆうりちゃんと二人で弾いていて、おもしろかったです。本番はきんちゃんのように、ちゃんと弾けたので、スッキリした気分になりました。

水野由那(小4)

ております。今回娘の入団にあたりスクールへ足を運んだのは20年以上ぶりでしたが、当時とまったく変わらない建物、迎えてくださる先生方の温かさもたいへん懐かしく、嬉しかったです。江原陽子先生による歌のレッスンも当時と変わらず、歌うことがもっと楽しく、もっと好きになるレッスンで、一語一語を大切に、想いを込めて歌うことを教えてくださいました。

演奏会での「七つの子」は、子供たちの純粋さが伝わってくる澄んだ美しい歌声で、こんなにも優しく愛情深い曲だったんだなあ、改めてその魅力に気づかされ感動しました。娘にとってはじめての合唱、舞台上で少し緊張した様子でしたが、達成感を感じられ楽しい経験となったようです。私自身の経験を通して、可能性を秘めた柔軟な感性の持ち主である子供たちにとって、和やかな雰囲気の中でソルフェージュスクールで音楽に慣れ親しみ、音楽の基礎を学べることは一生の宝物になると感じています。

現在は自宅が遠く、毎週通うことは難しいのですが、ウフやレ・テタールで月に一度通える機会があることに、心より感謝しております。娘たちが今後も音楽やさまざまな経験を通して、豊かな心を育んでくれると嬉しく思います。最後になりましたが、優しくご指導してくださった先生方、いろいろと教えてくれた先輩団員のお兄さんやお姉さんたち、ありがとうございました。

高橋絵美(保護者)



リトミック タン♪ティティ♪タン♪
タン♪



リトミック くるちゃん♪ たたこう♪



器楽合奏 ナベの蓋も今日はシンバル



器楽合奏「キッチンシンフォニー」
(指揮、古澤裕治) みんながコックさん



合唱レ・グルヌイユ+器楽合奏・弦楽
合奏出演者 (Pf、林さち子 指揮、江原陽子)



器楽合奏 ビン、コップ、フライパン、
しゃもじ、それにナベも楽器

舞台裏から見た演奏会

私が、演奏会の裏方の仕事をお手伝いするようになってもう十数年経ちますが毎年違っていてとても楽しいです。最初は、他の年上の方々の手伝いをするだけでしたが、今では自分が指示を出す側になってやりがいがあります。ここ数年は、裏方のメンバーも固定になってきている方も多く作業にも慣れていてスムーズになっただけでも助かっています。

裏方をやっていると一番嬉しいのは、やっぱりリハーサルスケジュール通りになることですね。リハーサルでも本番でも演奏時間が

早まったり延びたりするのは、人がやっていることなので必然なことだと思ってしまう分にはいいのですが、延びてしまった場合は舞台転換の時間をできる限り短くして少しでもタイムスケジュール通りに戻そうとします。そして、転換がスムーズに行き短い時間でできたときは、とても嬉しく感じます。

それから演奏会の間ずっと舞台裏にいるので、リハーサルから本番を通して出演者のいろんな表情を見られるのも私の中で裏方の醍醐味のひとつになっています。リハーサルのときは、お客さんがまだ入っていないのであまり緊張した感じはなくても

本番の前になると緊張した感じになる子、リハーサルと変わらず緊張した感じがなく舞台上上がっていく子、リハーサルの時以上に楽しそうに舞台上がっていく子と、さまざまあります。でも、みんな演奏が終わる拍手を受けて舞台袖に戻ってきて先生やほかの生徒たちが拍手で迎えると、照れたような、それでいて嬉しそうな表情をしているのを見ると、こっちまで嬉しくなってきます。

以前は、私も演奏者としても参加していましたが、裏方は裏方としてのまた違った喜びや達成感があるのでおもしろいです。なによりみんなで作る演奏会の一部になれるのが、とても嬉しいです。

大矢真義(スクールOB)

春のおさらい会

譜面の音符を正しく読んで演奏できる

三月二十日(祝)午後、春のおさらい会が三階ホールで開かれました。実技のレッスンを受けている生徒の発表会で、年二回十月と三月に催されます。今回はピアノ十五人、ヴァイオリン三人、フルート二人、チェロ、声楽各一名の二十二人が参加しました。ソルフェージュスクールでは、音を耳で覚えるのではなく、譜面の音符を正しく読んで演奏できるようにすることを基

本として指導しています。それができてしっかりと拍を感じさせる演奏には、まだ幼い生徒の演奏する初歩的な曲においても感銘を受けます。

レッスンを受ける人は発表の機会を持つことにより、一つの曲に一応の区切りがついて新たな段階に進むことができるので、年に一度は発表会に出演する機会を持つことが望ましいことです。それぞれが進度に則した曲を演奏し、その時々出演者の成長が見られるおさらい会は次回もまた楽しみます。スクールの生徒のみならずご父母のみなさまには、ご家族などが出演するときにかぎらず聴きに来てくださると得られることが多いであろうことをお伝えしたいと思います。

古澤裕治(講師)

達成感あり!!

今回のおさらい会はおそらく六年ぶり、小学校低学年以来二度目。前回はまだ石田先生がご存命のときで、三曲弾いたと記憶している。

さて、今回はカルメンから「ハバネラ」を一人で、サウンド・オブ・ミュージックから「エーデルワイス」を込山先生とともに弾いたが何年も大勢の前でピアノを弾くという機会はなかったので緊張なんてものではないくらいの緊張をした。聞いていた方にお尋ねしたいのだが僕の演奏はいかがだっただろうか?自分で聞くのとみなさまに聞こえるのでは、聞こえ方が違ったり



するらしいので気になるところだ。ちゃんとい感じに聞こえてくれば安心してできるのだが。今回演奏した曲のハバネラ、聞いたことがある人が多いと思ったのとリズムが難しかったのとで間違いを恐れるばかり緊張し、楽譜を見る余裕もなく、またテンポもかなり速くなってしまった。

二曲目のエーデルワイスは込山先生との連弾ということやコンサートで歌っていたということ、かなりリラックスした状態でできたと思う。また事実、ハバネラよりもうまくできたという手ごたえがあった。はじまる前の吹っ切れた状態。あいさつの時からの緊張。二曲目での安心感。そして終わった後の挨拶のときの達成感たるやそれぞれすさまじいもので、久方ぶりに恥ずかしさを耐えて出た甲斐があったというものだ。まあ、次回またやるかと言われるが「もう結構です」という思いはあるが。やはりおさらい会で弾くというのは恥ずかしさも遠慮したさもあるのだが、出てみて楽しく、達成感もあり、とても有益なことなのだろう。

最後に指導と連弾してください込山先生、サポートしてくれた家族、先生方、そしてお聞きくださったみなさま、ほんとうにありがとうございました。

水野重弦(高一)

春の ミュージックキャンプ

四月一日・二日

楽しかった♪、うれしかった月

私は今年はじめ、ミュージックキャンプにさんかしました。練習の時にいろいろなことを教えてもらえてよかったです。たとえば、「この曲は、大きなドレスを着ておどっている感じでひくんだよ。」とか、「二人でひく時に、音がかさなるように。」などです。一日目にやったおなべや鉄琴などでひいた合奏も楽しかったです。江原先生にひさしぶりに会えてうれしかったです。たくさんお話して、お昼ごはんもいっしょに食べました。おねえさんたちもとてもやさしかったです。発表の時は、込山先生が聞きにきてくれました。ひきおわった時におきやくさんがみんなはく手してくれてうれしかったです。とても楽しかったので、来年もまたさんかしたいです。

田中琴子(小3)

仲間とつくるアンサンブル

二日間にわたったミュージックキャンプの参加者は、ピアノ一人、ヴァイオリン三人、ヴィオラ二人、リコーダー一人、声楽三人の計十名。今回は小学生が少なかった

2017年度第1回研究会 (5月23日)

テーマ:「器楽合奏などに使用する打楽器とリコーダーの演奏・指導法及び取扱い方法について」

①各楽器の演奏法＝セッティングからはじめ、楽器のコンディションを調べながら次のことに留意し、各講師が演奏してみた。スネア(オープン・クローズ奏法)・バスドラム・コンガのチューニング(皮の張り方)パチの持ち方・握り方。cresc.、dim.。トライアングルの持ち方、ストロークの場所による音色の違い、オープン・クローズ奏法。カッコウ笛の持ち方、奏法、音程の取り方。セッティング(楽器の高さ)姿勢、手首の柔軟性、良い音・響きを出すためのベストとは何かなどを確認。

②各楽器の指導法
スネア・バスドラム・シンバル：たたく位置により音量・音色が変化する、後打ちの発音が遅れないようにタイミングの合わせ方が重要(利き腕は裏拍が良い)。脱力・自然の落下エネルギーをうまく使いたい。スネアは下腹部にスネアの胴がつく高さが良い。**トライアングル**：持ち方に工夫がいる、長さが調節できる吊り紐が必要、正しい持ち方とビーターの扱い方をマスターさせたい。楽器が回

らないようにたたく方向に注意するのがポイント。**シロフォン・グロッケン**：右、左利き手を考慮のうえ楽譜に記入しておく必要がある。シロフォンは黒鍵が高くなってたたきやすいが、グロッケンは高さが同じである上にネジがあるので難しい。ネジ部分を避けて演奏するには意識しての練習が必須。**カッコウ笛・ウズラ笛・水笛・ラッパ笛・リコーダー**：カッコウ笛は手の大きさに合うサイズを選ぶこと、タンギング必須。リコーダーは正しい運指の習得(パロック式・ジャーマン式に注意)とタンギング・スラーなどの基本奏法をチェックしたい。

③取扱い時の諸注意と保守＝保有楽器の種類・数の把握など。カスタネットはゴム交換、トライアングルは吊り紐を交換したい。

④器楽合奏曲のレパートリーについて＝現在約12曲の楽譜を保有、新曲を準備したい。アイレンベルク「森の水車」などはどうか。近年、器楽合奏の練習開始時期が押しして練習不足になっている。準備を早めたい。

⑤その他＝ラテンアンサンブル、オルフの合奏などを取り入れてはどうか。

出席講師：大村明子 吉村隆子 古沢裕治
 妹尾美紀子 山崎孝子
 企画・進行・記録：山崎孝子

のですが、元生徒さんの初参加があり、嬉しく思いました。参加された方々が、このミュージックキャンプを楽しみにしていただいていることを感じました。

参加者はあらかじめ譜面を渡され、一人で見ておきますが、仲間といっしょに弾き、ハーモニイも広がってくると、一人で弾いていた時とは曲の感じも変わってくることも多いと思います。作曲家の意図を想像し、いろいろ

考えながら、自分たちならではの音楽をつくっていく楽しみが、アンサンブルにはあると思います。はじめて合わせた次の日の午後にはもう発表というわずかな時間ですが、みな音楽をまとめることができ、またそれぞれに次への課題も見つけることができようでした。

妹尾美紀子(講師)

第1部 バッハとの出会い

メヌエット、ト長調ト短調
インヴェンション No.8
シンフォニア No.2
ゴールドベルク変奏曲よりアリア
平均律クラヴィーア No.1 プレリユード
グノー「アヴェ・マリア」
主よ、人の望みの喜びよ

第2部 春を感じる室内楽

ベートーヴェン/スプリングソナタより第1楽章
ウンベルト・ジョルダーノ/四月が戻ってくる
フランチェスコ・パオロ・トスティ/四月、薔薇
ゴーベル/ロマンティックな小品
ガーシュウィン・編曲 J.Cohn/ 三つの前奏曲

出演

Vn 妹尾美紀子 Va 川崎公子 Vc 長屋利沙
Fl 山崎孝子 Cl 古澤裕治 Vo 河向來実
Pf 大村明子、加藤恵理、込山今日子、林さち子

春のコンサート

四月二十九日(祝) 会場 ソルフェージュスクール 三階ホール

バッハの鍵盤楽器の曲を ほかの楽器で演奏

ピアノを習いはじめてしばらく経ちバッハの曲に出会うとき、すんなりといかず苦労された方も多いのではないのでしょうか。ピアノの導入の曲というと、両手で一つの旋律を弾く、または右手でメロディー、左手で伴奏のようなスタイルが多いですね。それがバッハのインヴェンションでは右手に旋律、左手も旋律。動き方も音楽的にも対等な関係になります。3声のシンフォニアでは手は2本なのに旋律が3つになるので、真ん中の声部は右手と左手を行き来することになります。そのようなポリフォ

ニーの曲の一つ一つの声部の存在を意識し、生き生きと演奏するきっかけになることを願って企画しました。(ピアノで演奏したあと、2声の曲はヴァイオリン2本で、3声の曲はフルート、クラリネット、チェロで演奏。)

そのように企画したものの、実際どんな音楽になるのか、また音域などの問題からそのまま振り分けるだけでは演奏が困難ところもあり、本当にできるだろうかと不安になったこともありました。しかし調べていくうちにこのような試みはいろいろなところで行われており譜面が

見つかったり、演奏される先生方がご自身で工夫してくださったりしました。さらには研究会(講師の定期的な勉強会)の場を与えていただき、実際に演奏して意見を出し合い、また演奏し、試行錯誤しながら準備することもできました。ピアノ曲としてピアノの世界で完結しがちでしたが、弦楽器、管楽器の助けを借りることで、音楽としてのピアノをイメージするきっかけになりました。

バッハに取り組みはじめたらどの曲にも次々と発見があり、曲と向き合う時間が幸せでした。そして、それが私だけでなく演奏されたみなさん皆そうであるのだと気づいたときに、バッハの素晴らしさをさら

に強く思いました。禁欲的に思われがちなバッハですが、深く音楽を愛し、また弟子たちが音楽を心から楽しめるよう心を砕いたバッハの作品からは、自然の摂理や大きな宇宙を感じます。

今回のコンサートを迎えるにあたり、出演者、先生方、事務の方々みなさまが力を注いでくださったことに勇気づけられました。心より感謝いたします。

ソルフェージュスクールでは春とクリスマス年の二回、コンサートをを行っています。演奏者とお客様の間が近いアットホームなコンサートです。これからもみなさんにお楽しみいただけるようなプログラムを考えていきたいと思えます。みなさまのお出でをお待ちしています。

込山今日子(講師)

七月十七日(祝) 楽しくアンサンブル

会場 ソルフェージュスクール

祖父と共演

今回、僕は初めて楽しくアンサンブルに祖父と参加しました。最初にバイオリンの初見の曲を祖父と練習しました。祖父と共に演奏できたことが大変うれしかったです。次に、江原先生の歌のレッスンに入りました。とてもいい声が出て嬉しかったです。このような機会を通して自分のスキルをもっと高めていきたいと思えました。

水野重春(中2)

名実ともに 楽しくアンサンブル

本講座は「初見大会」を改称して「楽しくアンサンブル」となったが、初見での演奏にチャレンジするものである。私は自宅でほとんど練習しない孫の刺激になればと思い、説得して一緒に参加した。孫はヴァイオリンで、私はヴィオラで参加した。

午前中はヴァイオリン三重奏。ヴィオラでの参加者が3人いたので、短い曲を数曲弾いた。作曲者も知らないし、聞いたことも演奏したこともない曲であったが、全員無難にこなした。こういう曲を探す先生方のご苦勞に感謝。

午後からはヴァイオリンで参加した孫達、小中学生組との共演。ヴァイオリン



年の差をこえて、はじめての組み合わせで初見に挑戦



連弾 ドキドキ。息ぴったり？
うまくいってるね♪

弦楽四重奏 はじめは慎重に。少しずつ
曲ができあがっていく。ちょっと緊張



とヴィオラだけで低音がなかったことなどもあり、アンサンブルを味わうにはいま一歩だった。なお孫はうまく弾けていなかったこともあってか、途中からヴォーカルにチェンジ。あとで話を聞くと、それなりに成果はあったようだ。

思うに初見はわずか一日の講習でレベルアップするものではない。楽譜を見ながら練習を積み重ねることによって、初見力も上がってくると思う。本講座の新しいネーミングに即して、事前にしっかりと練習してアンサンブルを楽しむ・・・名実ともに「楽

しくアンサンブル」に徹した講座内容に、衣を新しくした方が良いかもれない。

津田弘通(当法人理事)

八月一日(火)

亀井由紀子

特別公開レッスン

会場 ソルフェージュスクール
三階ホール

重圧感のある音に変わった！

私は、初めて亀井由紀子先生の公開レッスンに参加させていただきました。レッスン前日までは、そもそも公開レッスン自体受けたことがないので、サンフランシスコシンフォニーで活躍をされている先生からレッスンを受けられるなんて、光栄なことですが、緊張するなと思っていました。しかし、レッスンはがはじめてからは、もっとたくさんのお話を教えていただきました。と思うようになっていました。私がいつも弾くような感情のこめ方や、弾き方ではなく、私ではまったくないような感情のこめ方、弾き方を教えていただきました。レッスンはがはじめてしてはびっくりすると、自分で弾いている音が、自分の音ではないような、今までに聴いたことがないくらい、重圧感のある音へと変わっていったのが自分でもわかりました。今回、とても貴重な経験をさせていただくことができ、とても嬉しく思っています。ありがとうございました。

石川倫歌(中二)

お知らせ

この秋で大人のための基礎音楽講座は6回目を迎えます。長年ソルフェージュスクールが子供たちを対象に培ってきた音楽の基本を教えるカリキュラムは大人の人にとっても楽しく基礎が身につく、より充実した楽しい音楽の生活が送れるようになるだろうと考えてははじめました。楽譜を読むことの楽しさ、リズムに乗ることの心地よさ、などはしっかりと基本が身につくことこそ味わえるものです。自分が演奏をする時も人の演奏を聴く時にも受け止め方が違ってきます。アンサンブルの力がつきます。

10月から12月の行事

- ◇おさらい会 10月29日(日) 午後2時/当スクール3階ホール
- ◇大人のための基礎音楽講座 全5回 11月2日~12月7日、毎木曜日
- ◇レ・テアール(子どものコーラス科)

10月1日(日)	11月26日(日)	12月10日(日)
----------	-----------	-----------
- ◇ウフ(未就学児の科)

10月1日(日)	11月26日(日)	12月9日(土)
----------	-----------	----------
- ◇クリスマスコンサート 12月17日(日)
- ◇楽しくアンサンブル 12月23日(土・祝)

平成28年度、皆勤賞、精勤賞、おめでとうございます。

皆勤賞 8名

石川真渚 伊藤翔 斎藤千嘉 田中智晴
田中光世 堀山実穂 森夏実 吉永佳礼奈

精勤賞 4名

水野重弦 森千春 吉永衣織 和栗太佑 (敬称略)

楽譜を楽しむ!!
ソルフェージュってこんなに面白い!!

大人のための基礎音楽講座

・・・この講座の目標・・・

- ♪ 楽になる音取りや読譜
- ♪ 心から楽しむ合唱や合奏
- ♪ 演奏する楽しみ
- ♪ 心や頭、身体の開放
- ♪ リズムと拍の体得

<ソルフェージュスクール>で検索



ホットニュースはスマートフォンやタブレットやパソコンで。Facebookとホームページでいつでも気軽にチェック!!

充実の夏季合宿 2017

ペンションフェルマータ 音楽ホール →

8月3日(木)～6日(日)、ペンションフェルマータ(山梨県・甲斐大泉)で開催され、受講生12名を亀井由紀子、コルナ紗綾、シヨーン・チャング、妹尾美紀子、吉村隆子5人の講師が指導。



今回の合宿はスクールが最初に開いたところに回帰したような雰囲気を感じていました。若い三十代のゲスト講師(コルナ紗綾、シヨーン・チャング)のスピード感あふれる実行力と熱意、さらに亀井由紀子先生の愛情あふれる指導が受講生の心を捉え、受講生それぞれの自発性を目覚めさせ、みな時間をいとわず練習に集中した。最終日の発表会演奏に、この合宿の成果が遺憾なく発揮された。

亀井由紀子(ヴァイオリニスト) 東京生まれ。幼少よりヴァイオリンを大村多喜子に師事。ソルフェージュスクール発足時よりソルフェージュ、和声、合奏、室内楽を学ぶ。ヤッシャ・ハイフェッツの日本人初の弟子となり、彼のマスタークラスで7年間教えを受け、その後アシスタントを務める。カリフォルニア大学ロスアンゼルス校とペーパーダイン大学で教鞭を執った後、1993年にサンフランシスコ交響楽団に参加し現在に至る。

コルナ紗綾(指揮者) 幼少期より長野県に暮らし、クラリネットを傳田高廣に師事。サンフランシスコ音楽院、マネス音楽院でクラリネット、指揮、音楽理論等を学ぶ。現在ニューヨーク混声合唱団他の指揮者を務める。

シヨーン・チャング(ピアニスト・作曲家) 台湾生まれ。ピーバディー音楽院、マネス音楽院でピアノ、作曲を学び、現在ニューヨークでブロンクスオペラ、ガーデンステートオペラのリハーサルピアニストとして、また作曲家としても活躍。

- ドボルザーク ソナチネ 第1, 2楽章 (Vn・Pf)
- メンデルスゾーン ピアノトリオ Op.49 (Vn・Vc・Pf)
- ドビッシェ 小舟にて (Pf × 2)
- ダンクラ エアパリエ Op.89-1 (Vn・Pf)
- レスピーギ 6つの小品より
ロマンス、シチリアの狩人の歌、
小さな高地の人 (Pf × 2)
- ベートーベン 弦楽四重奏 No.12 Op.127 第1楽章
(1Vn・2Vn・Va・Vc)
- ロッシーニ セビリアの理髪師序曲 (Pf × 3)
- チルコット 小さなジャズミサより
キリエ、グローリア、アニュスディ
(Vo × 5)
- クーブラン 5つの演奏会用小品 (Vc)
- バッハ ピアノコンチェルト No.1 アレグロ
(Pf・Vn × 5・Va・Vc × 2)



爽やかな緑の中、紗綾先生の細やかな歌の指導



亀井先生の指導は繊細でおおらか。ゆったりした時間が流れます



熱気溢れる紗綾先生の指揮にぐんぐん引き込まれていきます



優しく、ていねいなシヨーン先生の指導に、思わずニコリ

8月6日発表会の曲目と楽器組合せ

達成感や充実感を味わいました

今回が私にとってのはじめてのソルフェージュスクールの合宿で、想像していたものとは違って、和気あいあいとした雰囲気の中で一人一人が技術を上げようと一生懸命練習していました。まわりに民家のない恵まれた環境の下、夜中の二時が過ぎても練習していた人もいて、その姿勢を私は見習いたいと思いました。人数が少なかつたのもあってか、休憩する間もないほどのハードスケジュールだったので、夜になるにつれてへロへロになっていきましたが、その分、達成感やたくさん練習できたことによる充実感を味わうことができました。私はこの合宿で今まであこがれていた弦楽合奏に参加させていただき、弦楽器ならではのハーモニーや同じ旋律のかけ合いによる厚くなる音をより近くで聴けて、とても楽しかったです。また、ダンクラのエアパリエではピアノと合わせることや、速いところの指がたいへんでしたが、最終日の発表会ではテンポキープできたので良かったです。

この合宿を通じて左手の握り方やヴァイオリンの持ち方を変えてみたり、亀井先生の授業で重音の良さを再認識したり、いろいろなことを学び、身につけることができました。素敵な人たちと出会えた充実した四日間をありがとうございました。

吉永佳礼奈(高1)